

城下賢吾先生のご退職にあたって

城下賢吾先生は、昭和30年9月、長崎市のお生まれで、昭和53年3月に山口大学と同じ高等商業学校を粗学とする長崎大学経済学部をご卒業なさいました。卒業後は神戸大学大学院経営学研究科博士前期課程へ進学され、昭和59年3月に経営学修士を取得されています。そのまま後期博士課程へと進まれたあと昭和62年3月に単位取得退学をなさると、広島経済大学の講師として就任されます。平成3年には同校助教授へと昇任し、平成7年4月に山口大学経済学部助教授として赴任されました。このように書きますと、一見、普通の研究者の紹介をしているように思いますが、城下先生の他に類をみないのは、昭和53年4月から55年1月まで山一証券株式会社へご勤務なされた経験をもち、さらに昭和61年から翌年まで日本学術振興会特別研究員としての経験もあることです。社会人の経験を経て研究者になるという方は珍しくはありませんが、大学卒業後の進路選択の苦悩とその後のご努力の様子を想像すると城下先生のお人柄や研究に対する真摯な姿勢がよく理解できます。平成9年にはUCB (University of California Berkeley) Haasビジネススクールへ1年半留学なさり、平成10年に教授へと昇任なされます。平成16年2月には神戸大学より博士(経営学)の学位を取得し、同年、東アジア研究科兼任となります。平成29年には東アジア研究科副研究科長に就任なさいまして、定年退職なされる令和3年3月までその任は続けました。

この間、教育・研究および運営に大いにご貢献いただきました。まず、教育面では、学部学生および大学院生のファイナンス分野の理解の向上に努めていただき、「財務管理論」、「投資論」など経済学部を代表する科目をご担当いただき、多くの優れた卒業生および修了生を世に送り出していただきました。

学内においては、教務委員会委員長、研究図書委員会委員長、経営学科世話役、情報環境委員会委員長、入試委員会委員長、就職支援委員会委員長、研究科運営委員会委員長、東研・図書委員会委員長を歴任され、やってない役職はないのではないかと思います。ほど学部運営のためご尽力いただきました。

さらに、地域貢献として、県立総合医療センター中期経営計画検討懇話会委員、山口県公衆浴場入浴料金協議会委員、山口市スポーツの森スコアボード等改修工事に係るプロポーザルにおける評価委員会委員、山口市武道館建設検討委員会委員、中国財務局財務行政モニター、日本経営財務研究学会評議員、財団法人やまぐち産業振興財団プロジェクトマネージャー等選定委員会委員、財団法人やまぐち産業振興財団、山口県中小企業支援センター事業推進委員会委員、財団法人やまぐち産業振興財団選定委員会委員、公益財団法人山口きらめき財団評議員、生活協同組合コープやまぐち経営監理委員会委員など地元経済界のために力を発揮されてきました。これも城下先生のお人柄を顕著に表しています。

学術研究面では、千倉書房から平成14年に出版された『市場のアノマリーと行動ファイナンス』に代表されますように、証券市場の理論分析を中心として最先端の分野でご活躍なさいました。『入門証券論』（有斐閣2000年）や『パーソナルファイナンス入門：私たちの生活とお金』（中央経済社2006年）など初学者向けのファイナンス入門書も多数執筆なされており、最先端から入門まで幅広くファイナンス理論の普及のためにご尽力なさっています。その他多数の業績がありますが、変化の激しいファイナンス分野の第一線でご活躍し続けたことへの敬意と同様、ここでは書ききれません。

城下先生は学生に対しても我々教職員に対してもいつも笑顔を基本に接しておられた様子はみなさんの記憶にも印象深く残って

いるのではないのでしょうか。プライベートでは、サッカーを愛するスポーツマンでもあり、お子さんのためにPTA会長も務めておられたことも含めて城下先生がこれまで積み上げてこられたもののすべてが城下先生の笑顔に凝縮されているように感じます。今回、無事に定年を迎えられ、経済学部の一員として城下先生をお送りできることに真の感謝と、そして、スタッフ全員の拍手をもって巻頭の辞とさせていただきます。これまで26年間本当にありがとうございました。

令和3年3月31日

山口大学経済学部長 兵 藤 隆